# 第31回優秀経営者顕彰

## 受賞者の横顔

### 優秀経営者賞

**荒江　一氏**

カメラ用レンズの切削・研磨のノウハウをプラスチックレンズの加工に転用し、コンタクトレンズ業界に進出した。コンタクトレンズメーカーの草分け的存在となる。

が、採算は悪化。2006年に研究開発部門は残しつつ、海外メーカーに技術提供し、品質を確保した委託生産・輸入販売に切り替えた。難しい経営判断ながら自社の技術を継承させた結果、順調に業績を伸ばしている。

**ファインフーズ社長　西村　正彦氏**

食の安全性が求められる時代を予見し、創業当時から天然調味料、天然香辛料を製造・開発する。無駄に廃棄された食料品を活用し、コストを抑えながら環境にやさしいモノづくりを行い、アイデアを製品化する技術志向型の企業に成長させた。

女性社員の役職就任や、シニア世代が働きやすいよう体への負担が少ない作業環境を整備するなど、ダイバーシティ（多様性）の推進にも積極的に取り組む。

**オーティス社長　佐山　修一氏**

両面テープ、フィルムなどの機能性材料を多層構成で精密プレス加工する。携帯電話・スマートフォン部品や、デジタル家電・自動車・医療機器関連など幅広い分野に供給。精密加工技術を要する金型の設計・製造、オリジナル加工装置の設計・開発に取り組み、オリジナリティーある製品を開発する。

また、地元商工会の理事を務めるほか、地域の人材雇用・育成にも力を入れ、地域社会の発展に積極的に取り組む。

**アサヌマコーポレーション社長　麻沼　雅海氏**

鉛筆型眉墨を開発し、化粧品製造に着手。化粧品のOEM（相手先ブランド）として粧材の開発・製造を行う。オリジナル容器の開発にも取り組み、商品をトータル提案する。高品質な製品づくりの実現に向け、技術開発の向上に取り組み、国内外の化粧品メーカーから高い評価を得ている。

中国に生産拠点を持ち、アジア市場に重点を置く。グローバルな視点を持って研究開発に取り組み、国際企業への発展を目指す。

### シェリエ代表取締役　高橋　博氏

ら、焼き菓子のOEM（相手先ブランド）生産に特化した。

製造方法の研究や機械の改造などを続け、繊細な材料配合、熱加減などが要求されるホテルや専門店向けの洋菓子に必要で内製化が難しいバウムクーヘンに商機を見いだし、創業。

中国にも同様のカーヘンを飲食複合した新ブランドを展開する。

定した。

### 研究開発者賞

**アサダ会長　浅田　一吉氏**

ネジ切り機、フロン回収・再生・分解装置などの製造・販売を行う。市場動向、社会のニーズをくみ取り、社会文化に貢献し、環境問題に対応する製品開発を強化。

〝新基盤技術の再構築〟をモットーに、研究開発に力を入れてきた。

技術アドバイスとメンテナンスを通じて顧客と深く結び付く。機械の改造などを続けた新工法を提案するなど、顧客の要望に応じたなお定評がある。

### 青年経営者賞

**日研工業社長　中山　要秀氏**

食品スーパー向け商品の価格表示器、ポップ掲載器具、商品展示台などの販促備品全般の製造・販売を手がける。現場に密着した企画営業を行う提案力を強みにし、価格以上の機動性を持つ食品スーパーの業務に精通した製品がそろう。

創業者である祖父から経営を引き継ぎ、31歳で社長に就任。下請体質から脱却するなど、全社的な管理統合を進め、重視の経営へ転換、営業力を今後の課題とする。

### 女性経営者賞

**富士電子工業社長　渡邊　弘子氏**

自動車、工作機械など向けに高周波熱誘導加熱装置の製造・販売、熱処理加工を行う。技術力のアピールに終始していた営業スタイルを、顧客のニーズを重視したアプローチに切り替えた結果、業績が飛躍的に成長。

実績が評価され、創業者である父から社長を引き継ぐ。

不況を乗り越えてきたことで、安定した売り上げと利益確保に成功。顧客などに対する与を実施し、ディーラー間の過度な品の提供を行った。波被害を免れた店舗も店内は損壊。こうした状況下でも、住民の食を果たす。

新規出店し、被災地に密着した店舗網の再建

## 日刊工業新聞社賞

**しのはらプレスサービス社長　篠原　敬治氏**

プレス機本体の改造、周辺装置の開発、修理を手がけるトータルメンテナンス事業を行う。既存のプレス機械を最新機器を装備したプレス機械に生まれ変わらす「レトロフィット」に取り組む。

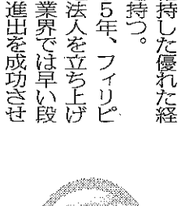
4000機種以上の修理・改造の実績を持ち、大手企業をはじめとする顧客からの信頼は厚い。

2013年にはIHIと協業するなど、ライフサイクル全般にわたるトータルソリューションの提案にも取り組み、活動範囲を拡大する。

**伊藤製作所社長　伊藤　澄夫氏**

金型メーカーで、順送り金型に特化したプレス部品加工技術を得意とする。蓄積したノウハウで価格競争力を強化し、リーマン・ショック時にも黒字を維持した優れた経営手腕を持つ。

1995年、フィリピンに現地法人を立ち上げるなど、業界では早い段階に海外進出を成功させた。日本金型工業会の役員を務め、業界の国際化に寄与するほか、日本、韓国の大学で講演するなど、国内外でも人材育成に貢献する。



**コトブキ相談役　馬場　均氏**

機械工具の販売、メンテナンス事業を柱とする東京都大田区を代表する機械工具商社。独自のシステムを導入したプレス機械は従来品より安全性が高く、従事者の負担を大幅に軽減し、好評を得た。また、顧客に適した製品・サービスを提供するなど、商社だけでなくメーカーの顔も持ち合わせたエンジニアリング商社として活躍する。

東日本大震災後、海水に浸った顧客の機械を無償でメンテナンスし、早期復興に貢献した。

**矢部川電気工業社長　阪本　一亜氏**

研究開発に対する意欲が強く、研究機関などとの連携でアルミ高純度制御装置の制御盤などの製品開発、サービス提案を行う。環境、農業など幅広い分野にわたる技術を持つ。

海外の展示会に出展し、新市場開拓。10カ国に拠点を展開し、売り上げは約70%を占める。新しい発信。新しい発技術で活躍したりの技術革新

**中日本炉工業代表取締役　後藤　峰男氏**

金型や金属部品などの強度を高めるための熱処理や、商品開発時に使用する実験炉などの工業炉の設計・製造を行う。開発した真空熱処理炉は熱処理工程において大きな課題であった加工物の酸化に伴うさびの発生による精度低下の問題を解決する。小型真空熱処理炉は日本だけでなく、東南アジアを中心とした国外からの受注が絶えない。

ユーザー目線で技術研究に励み、全国の中堅・中小企業、製造業の発展に貢献する。

**協同代表取締役　守屋　京子氏**

阪神・淡路大震災をきっかけに守屋勇治氏（現会長）が開発した瞬間発熱剤「モーリアンヒートパック」は水を注ぐだけで高温の蒸気が発生し、短時間で飲食物を加熱調理できる。使用後は一般ゴミとして廃棄でき安全・環境面に配慮している。

守屋代表取締役は同製品の営業に奮闘し、小売隊や官公庁の備蓄、自衛店などの販路を確立した。東日本大震災の被災地支援、海外の軍隊での採用など成果を挙げている。

**西精工社長　西　泰宏氏**

微細加工・冷間鍛造など独自技術を生かしたパーツ・ナットを製造し、国内外の自動車、航空機などの業界に供給する。従業員とのコミュニケーションを大切にし、毎日の朝礼や勉強会など人間力を育てる企業風土を確立した。また、企業と社員が共通の目標を掲げることで生産性の向上につなげている。

地域学生の採用を促進。障害者、高齢者の雇用にも取り組み始めるほか、育児サポートを積極的に進める。



**岩田製作所代表取締役　岩田　修造氏**

産業ロボット、食品機械などの部品メーカーで、社員一人ひとりがアイデアを出してニッチでユニークな製品を多数開発している。特注品にも短納期で対応築き、製造企決を支援する。

65歳定年制入、育児休業実、子どもの、従業員の にする職場づ 組む。中小企 るメセナ活動 高校生のイン 入れなども行